

日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報

JASCG

第54号

- 1◎巻頭言
- 2◎第28回中央研修会の趣旨//認定委員会//調査研究委員会
- 3◎学会誌作成委員会//広報委員会
//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 4◎先輩に聞く
- 5◎【兵庫県支部】一支部活動報告一
- 6◎第29回大会のご報告と御礼
- 7◎千葉大会の活動報告
- 8◎震災被災者支援委員会報告//会長コーナー//事務局より
//編集後記

巻頭言

私と教育相談

教育相談と出会い得た宝もの

私が教職に就いた1970年代後半の学校は、全国的に校内外での問題行動(反社会的行動)が蔓延し、子どもたちの心は荒んでいました。教職員の多くは、授業づくりの教材研究でさえ校内で行える状況になく、毎日のように繰り返される問題事案への対応・対処に追われ、夜間は憂鬱な気持ちで家庭へ足を運び、解決への見通しが見出せず、疲弊した日々を繰り返す日々でした。教職6年目、生徒指導担当(補導主事)に任じられ、相変わらず、日々モグラ叩きのような問題事案に追われていました。今振り返ると、学校は学ぶ場所「生徒は学校にくるもの」是は是・非は非(良いことは良い、悪いことは悪い)という発想と指導に懲り固まっていたようです。この時期に教育センターの研修講座への受講機会を得ました。その研修で講師をされていたのが、故高山和雄先生でした。先生が語る理論や実践を聴講し、まさに「目から鱗」でした。講座や指導を受けるたびに「馬鹿たれが」と叱られた回数は私が最も多かったのではないのでしょうか。先生と出会い、先生から学んだ子どもへの関わり方の幅・奥行き・広さ深さ等、今でも昨日のように思い返されます。



九州・沖縄ブロック代表 福岡市支部理事長
坂井 俊介

私が学校教育相談と出会い、学び身につけてきたことは、教師としての柱である授業力や実践力に役だったことはもとより、教育相談における理論・技能・実践力を通して、数多くの人(子ども・保護者・先輩諸氏)と出会い、目に見えない多くのエネルギーと、人間としての素晴らしさや温かさを他の誰よりも多く実感させていただくことができたと思っています。学校教育相談を通して学んだことや人との出会いは、今後の私の人生を方向付けてくれる指針となり、何ものにも代え難い宝であります。最後に、後輩たちが一人でも多く相談学会会員として学び、子どもたちを支え活躍してくれることを期待したいです。

第28回中央研修会の趣旨

中央研修会のお誘いと研修企画について

平成30年1月6日(土)～7日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、第28回中央研修会を開催致します。別刷りの研修会の詳細と募集要項をご覧頂いて、ふるってご参加下さい。

中央研修会でのプレ講座は、普段なかなか接することのできない教育相談の技法や新しい理論の概要、カウンセリングや心理学の周辺領域、生徒指導や学校教育のトピック等を取り上げていく予定です。今年のシンポジウムは、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとした次期学習指導要領の豊かな実現に向けての教育相談からの提言を趣旨としています。次年度でのシンポジウムの候補としては、「チーム学校への教育相談の役割」や「ガイダンスカウンセラーと相談教諭」等が候補に挙がっています。シンポジウムは、教育相談の中核的な話題を取り上げます。コース別講座は適応・学習・進路・健康の教育のマルチエリアでの、開発的・予防的・問題解決的なマルチレベルの研修を企図しています。

研修の企画は、研修委員会での過年度の研修実績照合や今後必要とする研修の討議を中心に進めますが、役員会からの要望やワークショップ・中央研修会後の研修アンケートも参照しています。各支部を通じての希望も取り入れていますので、是非、研修委員会に要望をお寄せ下さい。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)

認定委員会

千葉での第29回総会で承認された認定委員会の予算に、本年度も基礎講座開催補助費として63万円があります。これは学校カウンセラーの資格を取るのに必要な講座を各県支部で開催していただけるよう補助していこうというもので、今回で2回目になります。7ブロックの県支部で有効に活用していただき、ぜひ「学校カウンセラー」の資格獲得に挑戦していただきたいと思っております。

国家資格としての公認心理師法施行規則が公開され、一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会では「ガイダンスカリキュラムによる成長促進型の教育相談を行える専門家」として「ガイダン

スカウンセラー」の有用性を文科省はじめ各方面にアピールしています。「ガイダンスカウンセラー」の基礎資格である「学校カウンセラー」の資格を積極的に取っていこうという気運が、会員に広がっていくことを期待しています。

本年度の「学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会」は11月26日に東京で、講師に栗原会長を迎えて「学校教育相談のこれから～日本における包括的生徒指導～」というテーマで昨年度に引き続き講演していただく予定です。また、2月4日に東京で「第1回学校カウンセラーSV研究会」の開催を予定しています。SV制度が始まって3年目になります。学校カウンセラーの資質向上のためにSV制度をどう有効活用したらいいかを考えていきたいと思っています。

(文責：認定委員長 青木 美穂子)



調査研究委員会

「学校における被災者支援をする学校関係者への支援～被災してから6年以上経過して課題になっていること～」について調査研究を進めています。

今年度は、以下のところまで進めています。

- 7月：石巻市の教育長、市教委事務局の皆さんと懇談。(調査に関する確認を市役所で)
- 8月初旬：調査研究委員会。(予備調査内容について検討を名古屋と岐阜で)
- 8月下旬：予備調査の実施。(石巻市の教員夏季研修会で100人程を対象)
- ～10月：予備調査結果の集計と分析。(委員とメール等でやりとりしながら)

今後は、予備調査で分かったことを参考にして本調査を作成し、年度内に本調査を実施する予定です。

本調査実施後は、結果の集計と分析を行いながら、委員で分担をして結果の考察を考え、全体のまとめをしていきます。2年先の本学会の全国大会で報告ができるように進めます。

予備調査段階ですが、現場の多くの先生方が困り感を抱えながら生活をしていることが分かってきています。まとめたことが少しでも現場の皆さんのためになるようにしたいと考えています。

(文責：調査研究委員長 木村 正男)

学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、日頃、学会誌作成委員会の活動にご理解とご支援を賜り有り難うございます。

現在、学会誌『学校教育相談研究第28号』への投稿論文の審査を行っております。今年度の投稿論文数は8月末までで10本です。この後、10月末までで夏の全国大会で発表された先生が投稿されることになっておりますので、最終的には15か16本くらいと思われます。

今後、査読済の投稿論文は、12月の学会誌作成委員会にて掲載にかかわる判定をする予定です。その後、修正・校正を済ませ、発刊は例年通り、来年の6月となります。

さて、今年度より投稿規定と審査に関するガイドラインの一部を改訂しました。投稿原稿の分類を「研究論文」「実践論文」「実践報告」「資料」の四つにしました。審査結果は、従来の三段階から、「掲載する・修正の上掲載する・修正の上再審査する・修正の上次号以降再審査する」の四段階となりました。これらの改訂により、会員の皆様がより投稿しやすく、論文の掲載可能性が高まるようになったと考えております。

学会誌作成委員会では、論文作成講座を毎年1月の全国研修会と夏の全国大会で、1日ワークショップ形式で行います。是非ご参加ください。

投稿論文に「実践報告」を新設しました。日頃の実践を是非ご投稿ください。

(文責：学会誌作成委員長 長坂 正文)

広報委員会

広報委員会では、佐藤敏彦副委員長が新委員長に就任しました。今後も、魅力ある会報の作成に、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

ガイダンスカウンセラー関連情報を、今回も、本学会の名誉会員・日本スクールカウンセリング推進協議会理事の加勇田修士先生から報告していただきます。

(文責：前広報委員長 梅川 康治)

ガイダンスカウンセラー関連情報

「教育相談等に関する調査研究協力者会議」より「児童生徒の教育相談の充実について」が2017

年1月20日に発表されました。

その中で初めてガイダンスカウンセラーの必要性が確認されました。「スクールカウンセラー等活用事業実施要領」の中に、「④都道府県又は指定都市が上記の各者と同等以上の知識及び経験を有すると認められた者」が付け加えられ、ガイダンスカウンセラーの採用が可能になりました。

日本スクールカウンセリング推進協議会は、ガイダンスカウンセラーの採用を確実に推し進めるために改正案を作成し、児童生徒課長に提出しました(9月11日)。以下が、その抜粋で、下線部が追加です。

1 事業の趣旨

公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び地方公共団体が設置する児童生徒の教育相談を受ける機関(以下「学校等」という。)に児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラー又はスクールカウンセラーに準ずる者(以下「スクールカウンセラー等」という。)を配置するとともに、24時間体制の電話相談を実施し、教育相談体制を整備する。

3の(1) スクールカウンセラーの選考

次の各号のいずれかに該当する者から、都道府県又は指定都市が選考し、スクールカウンセラーとして認めた者とする。①臨床心理士②精神科医 ③大学の職にある者又はあった者④都道府県又は指定都市が上記の各者と同等以上の知識及び経験を有すると認めた者(例えば、一般社団法人スクールカウンセリング推進協議会の認定に係るガイダンスカウンセラーなど)

☆ガイダンスカウンセラーや学校カウンセラーに関連すると思われるのは、「必要な科目の取扱いについて(通知)」の6～7頁目の「既卒者の読み替え(大学院)」に関する内容です。

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-1220-0000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu/000177884.pdf>

「学校心理学」「グループ・アプローチ特論」「学校カウンセリング・コンサルテーション」「生徒指導・教育相談・キャリア教育」「生徒指導・心理相談」等が入っている部分が注目点だと思います。

日本スクールカウンセリング推進協議会の今現在の活動は、・文科省 SC 事業実施要領の改正を求めて、児童生徒課への要請行動、国会議員等への要請行動を行う ・全国の SC としての実践を調査し、と

りまとめ中・会員向け公認心理師の学習会(2018年2月東京)を計画・2017年度ガイダンスカウンセラー資格認定試験を実施・ガイダンスカウンセラーの周知へ向けてHPの改訂を進行中です。

今後、日本スクールカウンセリング推進協議会の運動を支える意義があると思います。

(文責:名誉会員 加勇田 修士)

先輩に聞く

「私と教育相談」

名誉会員 梶谷 健二



「梶谷先生を偲ぶ会」を、先生が急逝された1か月後に(ご家族の意向があり)執り行いました。周知も不十分な中、年度末の平日の午後にもかかわらず、遠方からも300人を超える方々が参集されました。偲ぶ会世話人代表の私(梅川)は、先生の職域を超えた方々とのつながりの広さと深さに感銘したことをよく覚えています。

先生は、中学校・養護学校教諭から大阪市教育研究所所員を経て、関西大・相愛大をはじめ多数の大学・大学院で教授・客員教授・講師等を歴任。本学会の役員や委員長、大阪府支部の理事長、様々な研究会・研修会で講師やスーパーバイザーを歴任。文科省、大阪府、大阪市、堺市などの教育・警察・精神保健・福祉・体育などの委員・委員長。スクールカウンセラー・スーパーバイザー・コーディネーターなど、多方面にわたり重責を担われました。

先生の学会での活躍を知る方々にインタビューした内容を紹介させて頂きます。

☆嶋崎 政男 前会長から

平成27年は大きな節目の年となりました。梶谷先生の突然の訃報はまさに青天の霹靂でした。先生を先頭に大阪支部の皆様は一致団結して大会開催準備に追われている時でした。「学校教育相談」をめぐる大きなうねりが起こり、私個人にとっても「私と学校教育相談」の整理が一段落した時でした。

大阪大会では、「これまでの知見に学び活かす」(副題) ことによって、「学校教育相談の充実・深化を図

る」(主題) という目標が立てられました。学校では急速に世代交代が進み、それまで積み上げてきた数々の貴重な「遺産」の継承が大きな課題となっていますが、本学会もまたその渦中にあり、「これまでの知見」を「礎」とし、その「輝」を失わずに、新たな「志」の実現に向けて大きく羽ばたく瞬間(とき)を迎えていたのです。ここに「悼」が加わってしまいました。「礎」「輝」「志」は梶谷先生への追悼の言葉となりました。

「礎」。本学会草創期に奔走された諸先輩の方々は、学校教育相談を「すべての教師が全ての児童・生徒を対象として、あらゆる場面において行われる教育活動である」と明確に位置付け、臨床活動一辺倒になりがちな教育相談の在り方を開発・予防・問題解決という三機能から包括的に捉えました。本学会の揺るぎないコンセプトです。先生は平成9年から大阪府支部の理事長を、ブロック代表理事が創設された平成15年からは近畿石川ブロック代表として、この理念の拡張に努めてこられました。

「輝」。本学会に集い、学び、つながった方々は教育相談のエキスパートとして、学校での教育相談の推進者として、教育相談を授業や学級経営に活かす先駆者として、それぞれの立場で輝いています。このような会員一人一人の地道な活動が児童生徒の笑顔を生み出しています。子どもたちの瞳の輝きは、会員を輝かせ、会そのものを輝かせています。梶谷先生自身の輝きは今なお一層の光を放っています。多くの後進を育ててくださった功績は決して忘れられません。

「志」。問題行動等への対処だけでなく、道徳教育、特別活動、キャリア教育など、幅広い分野で学校教育相談への期待が高まっています。最新の文部科学省「学校における教育相談等に関する調査研究協力者会議まとめ」では、開発的教育相談の重要性が強調され、SCの資格に「ガイダンスカウンセラーの実績等を踏まえる」と明記されました。「梶谷先生、ここまでできましたよ」。やさしくうなづく先生の姿が髣髴とされます。

「悼」。突然の訃報に茫然自失した時のことが忘れられません。事務局長12年、会長を4年務めさせていただいた16年間、役員会などでお会いした折はいつも優しくアドバイスをしてくださいました。

「自分らしさが一番」「きっとどこかに『良い所』が隠れている」等。まだまだありますが、「出し惜しみ」させていただけます。「心理的事実の受容・客観的事



実の支援」、「ピカッと光るものを見つける」「聴くも大事、訊くも大事」。そして何よりも「技（スキル）もいいけど、やっぱり心（マインド）」。学校教育相談の有様について自分なりの答えを見つけた気分になっている私に、先生はこうおっしゃるでしょう。「まだ、まだ」。

（嶋崎 政男）

☆根本 節子 事務局幹事から

梶谷先生は、近畿石川ブロック代表理事として役員会には必ずご出席くださり、中心的な役割を果たされながらも、決して出過ぎず、学会の在り方についての決してブレないご意見で、入会基準の緩和や学生会員を認めた場合の大会や懇親会への参加については学会としての責任の持ち方について、学会の重鎮として深いご見識をお示しく下さいました。

小泉英二記念賞・学会賞の選考委員長や役員等推薦委員長などを歴任され、長年、学会の発展にご尽力くださいました。学会賞は梶谷先生のご発案で誕生した賞です。

私が事務局幹事を引き受けた際には、「困っていることはないか」と何度もお電話をくださり、上京される際には時間を作って直接に話を聞いてくださるなど、本当に細やかな心配りをしてく下さいました。

歌舞伎には何度かご一緒させていただきましたが、ご造詣が深かった現代劇やオペラのお話を聞かせていただくのも楽しみでした。（根本 節子）

インタビューから、梶谷先生の人柄や「教育相談」と本学会に対する姿勢や思いが伺えました。どれほど多忙であっても「どうかな」と必ず気遣ってくださった先生が、大好きなコーヒーを飲みながら、「出合いを大切に」と語りかけてくださるような気がします。同時に「先生の遺志を少しでも次の世代につなぎたい」と、あらためて強く思いました。

（文責：事務局長 梅川 康治）

【兵庫県支部】一支部活動報告一

兵庫県支部では、毎年5月の最終日曜日を総会及び研究会に当てています。また、実践から学ぶということを重視し、平成8年度から事例研究会（第1回平成9年3月2日）を実施し、平成9年度からは年3回実施しています。多くの参加者を募りたいという思いから、



日程（7月・12月・3月の第1日曜日）、会場を固定して実施しています。現場で実際に起こった事案に対して、その対応はどうだったか、言葉がけは適切であったか等、発表者の報告にしたがって参加者が意見を出し合い、最後に指導助言で締めくくるというスタイルをとっています。平成29年度で22年目に入りました。

また、現在、「近畿・石川ブロック」として研究大会が行なわれていますが、平成4年から実施されていた「大阪府・兵庫県合同研究大会」が発展して出来たものです。第1回から、事例研究を取り上げ、現在の「近畿・石川ブロック研究大会」でも続けられています。

学会自体の高齢化がよく取り上げられますが、当然ながら支部にも高齢化の問題があります。若手の先生の学会入会を呼びかけるものの、なかなか入会には至りません。かつては事例研究会での発表者を若手の先生に依頼し、発表者が参加者、助言者からのさまざまな意見を聴き、もっと研修をして相談力を上げようと入会したものでした。私もその一人でした。しかし、今は参加者も固定化されつつあり、若手の参加もチラホラの状況です。

今後は、定期的な研修会を取り入れ、支部の活動が活性化し、ひいては学会全体が活性化するように、会員の裾野を広げていきたいと考えています。

1 平成29年度第28回支部総会・研究会

(1)期日：平成29年5月28日（日）

(2)会場：神戸市立産業振興センター

(3)研究会講演

演題 「乳幼児から育む自尊感情」

講師 日本ウェルネススポーツ大学 教授

近藤 卓 先生

2 第62回事例研究会

(1)期日：平成29年7月2日（日）

(2)会場：新長田勤労市民センター

(3)テーマ 「不登校傾向で苦しんでいる高校生」

(4)発表者 神戸セミナー 尾鼻克之 先生

(5)助言者 神戸松蔭女子学院大学 教授

坂本 真佐哉 先生

3 今後の事例研究会（予定）

・第63回事例研究会

(1)期日：平成29年12月3日（日）

・第64回事例研究会

(1)期日：平成30年3月4日（日）

第63回、第64回ともに会場は、新長田勤労

市民センターで、テーマ、発表者・助言者は未定です。

4 日本学校教育相談学会第29回総会・研究大会 (千葉大会)

(1)期日：平成29年8月5日(土)

(2)会場：ホテルポートプラザちば

(3)実践事例・研究発表

テーマ「小学校管理職に対する訪問型学校支援
アドバイザー制度の意義と役割」

発表者 根本 明夫

5 近畿・石川ブロック研究大会奈良大会

(1)期日：平成29年10月22日(日)

(2)会場：リガール春日野

(3)分科会発表者

熊澤 紅実、本間 大輔

(4)助言者・司会者

仲東 茂、小川 玉樹

6 支部会報の発行

「兵庫県支部だより」(年2回発行)

7 平成29年度支部役員

理事長 向江 幸洋

副理事長 橋本 秀実

副理事長兼事務局長 古谷 雄作

理事 西本 由美、磯野 清、仲東 茂、

長谷川 重和、根津 隆男、中村 忠生

監事 根本 明夫、小川 玉樹

会長 谷口 正己

顧問 藤井 弘

※役員会：年4回、総会の前、事例研究会の終了後に行なっています。

(文責：兵庫県支部理事長 向江 幸洋)



何らかの躓きのあった子どもたちを温かく迎え入れられる学級・学校、そして社会を創りあげていきたいという思いを込めて、上田紀行東京工業大学教授の「温かい眼差しの輪」という言葉をサブテーマにしました。

内容的には、先ず文科省初等中等教育局児童生徒課：坪田知広課長による「学校教育相談体制の充実」と題する講演をいただきました。設定時間の短いなか、精力的なお話で将来的な常勤教育相談担当者の必要性についても言及されました。

海外招待講演としては、臺灣師範大學教育心理與輔導系主任の田秀蘭教授にお話しいただきました。学校心理学を理論背景とした三段階予防体制について、2014年成立の生徒輔導法を中心に、法整備されたシステムについて理解を深めました。

公開記念シンポジウムでは、「大人への移行のための『学び』—移行支援としての教育の可能性」について、千葉大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻科長：保坂亨教授と和歌山県精神保健福祉センター：小野善郎所長に、それぞれ教育心理学、発達精神病理学のお立場から「学び」についてお話いただき、特に高校生を中心とする移行支援の問題を扱っていただきました。

今回は、ランチョンセミナーも2本企画し昼食時間も惜しんで研修に励みました。メディア総合研究所の福田訓久先生による「異文化理解ナバホとの交流」と、臺灣の鳳新高級中學輔導教師の王慧婕先生の「臺灣における輔導教師のお仕事」の2本です。お二人の講師には、昼食時を考慮した軽い読み物風のセミナーをということをお願いしました。福田先生のアメリカ先住民族の中でのフィールドワーク的なお話や王先生による輔導教師の具体的な仕事内容についてのお話など、両者ともに大変好評でした。

2日目は、星槎大学大学院教育実践研究科長：大野精一教授による教育講演「私の学校教育相談 School Counseling Services by Teachers in Japan 研究について—今後の展望を踏まえて」を行いました。大野先生の学校教育相談に対する篤い思いと、これまでの実践並びに研究の集大成ともなるようなお話をいただき会場はほぼ満席状態でした。

さらに前年度の学会賞受賞者講演は立命館大学大学院教職研究科長：春日井敏之教授による「教育相談を軸にした包括的な指導・支援—いじめ・不登校・子ども理解・チーム支援」と題する講演で、演者の持つ豊富な具体例を展開した分かり易いお話でした。

第29回大会のご報告と御礼

本年度の千葉県支部主管の総会・研究大会(8月4~6日)は、全国から380名余りの参加者をお迎えし、盛会裏に終了できました。これも全て会員の皆様のお蔭です。ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

「平成」と歩みを共にしてきた本学会も29回目の総会・研究大会を数えるに至り、本大会は「チームでひろげ、つながる学校教育相談」をメインテーマに、サブテーマ「温かい眼差しの輪の中で」を設定して、千葉市内の神田外語大学とホテルポートプラザちばを会場に実施いたしました。

その他に、会員の皆様による5本の自主シンポジウム、19本の研究発表並びに実践事例、5本のポスター発表、研修委員会によるラウンドテーブルなど多彩な研究発表と、それに基づく意見交換が活発に行われました。

これらの活動をとおして、今後の学校教育相談の可能性と方向性が模索された大会でした。折しも公認心理師の国家資格化、教育相談コーディネーターの養成など、本学会との関係が深い重要施策が相次ぐこの時期、本学会の重要性も増しているところです。本学会の更なる発展を期して来年の記念すべき第30回東京大会へと繋げましょう。

(文責:千葉県支部理事長 田邊 昭雄)

千葉大会の活動報告

～ワークショップとラウンドテーブルの実施～

【第18回夏季ワークショップ】

去る8月4日(金)9:30～16:00、千葉県千葉市の神田外語大学で、第18回夏季ワークショップを実施しました。講座の3コースが早々と定員に達し、十数年ぶりに200名を超す参加申し込みを受け、盛況のうちに終了致しました。千葉大会は当日参加の申し込みも多く、ワークの都合での直前の会場変更など、千葉県支部関係者にはお手数をおかけ致しました。千葉県支部の方々の献身的なご協力に感謝致します。

以下に、第18回夏季ワークショップアンケートより、感想を抜粋して掲載致します。

・不登校児の支援の難しさをあらためて思い知らされました。今抱えている不登校の支援を本研修で得た「快い愛着関係の構築」について伝え、子どもの問題となっている鍵をしっかりとらえて、ホンモノの共感(子どもの心を動かす共感)ができるよう支援し、子どもたちが自立して幸せな人生を歩んでいけるよう、常にプラス言葉をかけて頑張っていきたいと思います。

・解決志向アプローチの本は読んでいましたが、演習や講義を通して、その有用性を強く感じました。学校現場で実践したいという意欲が高まりました。

・「RJ」を初めて知りました。世界的にどのような広がりを見せ、どのように取り入れられているのかも知ることができました。これから、しっかりとその意味、実践法を学んでいきたいと思いました。

【第6回ラウンドテーブル】

去る8月6日(日)9:30～11:30、千葉県千葉市のホテルポートプラザちばで、第6回ラウンドテーブルを実施致しました。テーマは『保護者支援を語り合う～対話から協力・連携まで～』で、千葉県子どもと親のサポートセンターの松田憲子先生より話題提供を受け、25名の参加者が小中高のテーブルに分かれて実施致しました。会員参加型の学習、学会のアクティブラーニングとして、今後も多様な企画を提供し、研究と実践の統合を目指したいと思います。参加者の感想を掲載致します。

「第6回ラウンドテーブル」に参加して

栃木県支部 佐藤 幹雄

松田先生より、「保護者相談分析と若年経験者教員の意識調査から見える信頼関係構築のための課題」という話題提供を受けた。若い先生方が保護者との信頼関係を作ることをサポートしていくためにハンドブックを作っていることを中心としたお話であった。ラウンドテーブルの話し合いでは、ネガティブメッセージはなかなか若い教員の中には入って行かず、傾聴は難しいが、傾聴は大切であり、保護者の思いや考えを理解し、そのネガティブメッセージを生かすことが大切であるというところに落ち着いた。その上で、何が問題なのか?何を聴くのか?ということに熟考して話を聴いていく。また、親と信頼関係を築いていくためには、その対応のためのリソースを探していくということも大切だということになった。ただ本当の意味での保護者支援の有り方の深奥のところまで話を深めるのには時間が足りなかったのは残念である。

平成30年1月6日(土)～7日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、第28回中央研修会を開催します。一部は交渉中ですが、概要をお知らせします。詳細は11月の会報でご案内しますが、10月下旬には学会ホームページに募集要項を掲載します。参加申込み状況は、11月中旬からホームページでお知らせします。お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。

今年度の中央研修会の構成は昨年度と同様です。初日にプレ講座3コースとシンポジウム、その後、教育相談カフェ(交流懇親会)。2日目にコース別講座7コースを予定しています。テーマは全て仮題です。

(文責:研修委員長 渡辺 正雄)

災害被災者支援委員会報告

災害被災者支援委員会では被災地支部やブロック毎に支援体制を作っていただけのように活動を開始いたしました。

具体的には被災地の校内研修会で会員が実施できるプログラムを作成し、被災地の宮城県支部の会員に参加していただき、実際に小中学校で教師や生徒を対象にした研修会を実施して検証を行っています。学校が希望する日程で校内研修会の講師を引き受けてくれる人材の確保が大きな課題となっております。支援委員も午前中の仕事を済ませてから被災地に行き、研修会を実施し、最終の新幹線で帰るのが現状です。ボランティアで講師を引き受けてくれる多くの会員講師が必要です。

(文責：災害被災者支援委員 根本 節子)

会長コーナー

先の選挙で再び会長を務めることになりました栗原慎二です。

一期目の際には「研究団体・研修団体・実践団体としての成長」と、その実現のための「社会的連携の推進」という四つの目標を掲げました。このことは二期目も何ら変わりません。

ただ、二期目を迎えるに当たり、「そもそもそれは何のためか」ということをもう一度考えました。そして思い至ったことは「貢献」ということです。研究・研修・実践、そして連携を推進するのは、「子どもたちに、学校に、先生方に、保護者の方々に、教育そのものに、そして日本社会に貢献する」ためだということなのです。

学校教育相談はここ数十年で最大の変化に直面しています。その変化の中で「教育相談は重要」という私たちの主張は認められつつあります。その代わりに「本当に貢献できるのか」ということを問いかけられています。それは本学会が信頼に足る団体なのか、実力があるのかという問いかけでもあります。

これからの二年間はこうした問いかけに実績を持って応えていくことが課題だと考えています。学会全体としての取組だけではなく、各支部や会員個人の活動もますます重要になるでしょう。それぞれの置かれている場で「貢献」を果たすことで、学会の発展を、そして教育の発展を支えていきましょう。これからの二年間、よろしくお願ひ致します。

(文責：会長 栗原 慎二)

事務局より

平成29年8月4日に行われた支部代表者会で、次の方が名誉会員に推薦され、翌日の総会で承認されました。

・名誉会員

橋戸 敏弘 (元奈良県支部理事長)

また、各賞は以下の通りです。

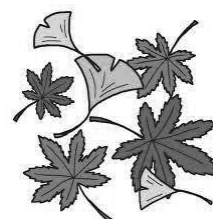
・第11回小泉英二記念賞

藤原 和政 (千葉県支部)

・第9回学会賞

藤井 和郎 (岡山県支部)

(文責：事務局長 梅川 康治)



編集後記

この学会をさらに魅力あるものにするため、様々な取組がされています。会員の皆様のさらなるスキルアップのため、この学会をより多くの方々に知ってもらうため、様々な研究会や研修講座が企画・開催されています。さらに、学会認定の学校カウンセラーだけでなく、さらに活躍の場が広がる可能性の高いガイダンスカウンセラーの資格取得も呼びかけられています。理論と実践を、皆様とともに、学び、深めていきたいと願っています。

(文責：前広報委員長 梅川 康治)

日本学校教育相談学会会報

第54号

平成29年11月20日発行

発行 日本学校教育相談学会

会長 栗原 慎二

編集 日本学校教育相談学会広報委員会
委員長 佐藤 敏彦

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>